

学生ボランティアに対する派遣校教師の評価

山本 真由美^{*1} 瀬部 あゆみ^{*2} 島 治伸^{*3}

The estimates of dispatched elementary schools and junior high schools teachers
to student volunteers

Mayumi YAMAMOTO^{*1} Ayumi SEBE^{*2} Harunobu SHIMA^{*3}

Abstract

As a part of the special needs education, there is a cooperative action with the Education Committee of Tokushima on the project of dispatching student volunteers to the elementary and junior high schools for learning support.

In order to know the desires and expectations of the teachers of those schools who sent students volunteers, a questionnaire survey was made.

98 % of the student volunteers were recognized in elementary schools and 100% within junior high schools. The results of the survey show four items in which the elementary and junior high schools coincide. They are as follows : "Individual support to the pupils with difficulties in learning", "support to the pupils who could not concentrate in the class nor in the study", "appropriate support to the pupils when they need guidance", "tell the teacher the situation of pupils". More specifically, as the individual differences among pupils grow wider, guidance for everyone becomes difficult. Moreover, because the expectations of this support for the students must be achieved within a limited span of time, some people believe that only some support can be realized but not all.

Although the existence of students volunteers is known by the teachers, there are differences among the teachers as to which type of support can be expected from the students. Therefore, from now on, it becomes necessary to consider which type of support the students have to give.

Key words : Special needs education, student volunteers, individual support

*1 徳島大学大学院 ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 Institute of Socio-Arts and Sciences, The University of Tokushima

*2 石原金風株式会社 Ishihara Metal Co.,Ltd

*3 徳島文理大学人間生活学部 Tokushima Bunri University Human Life Sciences

はじめに

2001年10月に「特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議」が設置され、「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する実態調査」の結果、2003年3月に学習障害(LD)、注意欠陥/多動性障害(ADHD)、高機能自閉症、学習や生活面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒が6.3%程度の割合で通常の学級に在籍している可能性が報告された。

さらに、さまざまな議論がなされ、2005年12月に「特別支援教育を推進するための制度の在り方について(答申)」が取りまとめられた。それらに基づき、2006年3月に「学校教育法施行規則」の一部改正が、2006年6月に「学校教育法」等の一部改正が行われ、障害のある子どもの一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行うものである特別支援教育が2007年4月から全国の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等において本格的に実施されることとなった。

日本で2007年度から本格実施されるようになった特別支援教育であるが、これは1994年にサラマンカで採択されたインクルーシブ教育の理念に基づいている。インクルーシブ教育とは通常学級の中で個々の幼児・児童・生徒のニーズに応じた教育を行うことである。しかし、40人/1学級を標準としている日本の学校で

は、この理念を実現するのは困難である。学校現場における人材不足を補うために、文部科学省と各自治体ではさまざまな人材を学校現場に派遣する施策を実施している。文部科学省の「特別支援教育支援員」の活用事業に基づき、各自治体によって名称はさまざまであるが、学校生活支援教員、スクールアシスタント(兵庫県教育委員会、2006)、総合育成支援員(京都市教育委員会、2008)、特別支援教育助教員、学校支援助教員(徳島市教育委員会、2008)、学生ボランティアなどがある。また、特別支援教育に関わる事業以外に理科教育支援員(独立行政法人科学技術振興機構、2008)などもあり、1つの学校に教員以外の人材が複数配置されている。

学校現場に特別支援教育への支援を目的に学生をボランティアとして最初に活用を開始したのが神戸市教育委員会である(神戸市小学校長会、2004)。この学生ボランティアは、1996年の中教審「21世紀を展望した我が国の教育の在り方」で登場した学校ボランティア(1997年には「学校支援ボランティア」と連続する活動と言える。学校支援ボランティアは、地域住民がもの作り指導や伝統芸能演示、教材作成の協力、施設設備の補修や植木の剪定、学校内外のパトロールなど幅広い環境支援と学習支援を行っている。徳島県では通常の学級に在籍する発達障害などで特別

な支援を必要とする児童生徒一人一人の特性に応じた指導支援の充実を図ることを目的に、県内4大学と連携し、大学生・大学院生を小学校・中学校に「学生支援員」として派遣し、学級担任等の補助として平成18年10月から生活や学習の支援を行っている。徳島市では平成17年度から徳島市特別支援教育連携協議会を設置し、関係機関との連携による支援体制の整備を目指し、「学習支援ボランティア」という名目で徳島市内の小学校・中学校に大学生・大学院生を派遣している。「学生支援員」や「学習支援ボランティア」（以下、学生ボランティア）の支援対象は、通常の学級に在籍する発達障害の児童生徒、及びその特性のある児童生徒を中心に、支援を必要とする全ての児童生徒であり、特別支援教育コーディネーターや学級担任等の指導のもと、学習や生活の指導支援を補助するというのが支援内容である。派遣対象校は通常の学級に発達障害などの特別な支援を必要とする児童生徒が在籍し、かつ徳島市の特別支援教育に関する調査研究及び学生の大学における研究に協力できる学校とされている。活動時間は週に1回、午前または午後4時間程度で、具体的な時間は各学校と個人で打ち合わせをして決めている。徳島市では今年度、この制度開始から5年目を迎えている。

学生ボランティアは、主に保育、教育、臨床心理などに関わって勉学

を重ねている大学生、大学院生（以下、学生）が対象となっている。学生ボランティアは、先に述べたさまざまな支援員の一環であり、学校現場において特別支援教育コーディネーターや学級担任の補助的役割、通常の学級において支援を必要とする児童生徒から見れば学習や学校生活の指導支援を行ってくれる役割を担うことになる。若干の交通費とボランティア保険への加入の保障はあるもののあくまでもボランティアであるこの活動は、学生にとっても意義のある活動となるべきものであり、社会的自立、職業的自立に役立つ活動になる必要がある。

そこで、本研究は、現在学校現場にさまざまな名称で派遣されている特別支援教育支援員の一環と考えられる学生ボランティアの存在が小学校・中学校の教師にどの程度知られているのか、学生がボランティアとして小学校・中学校に入る中で、どのような活動を期待されているのかやどのようなニーズがあるのかを調べるために、学生ボランティアが派遣されている小学校と中学校の教師を対象として意識調査することを目的とした。

方 法

(1) 協力者：徳島市内にある小学校・中学校のうち、学生ボランティアが派遣された小学校23校、中学校10校に勤務する教師1,170名が対象となった。回収率は小学校55.4%、中

学校 48.9%，全体で 52.8%であった。内訳は Table 1 に示す通りである。

Table 1. 協力者の男女別校種別人数内訳 (%)

校種 \ 性別	男性 (%)	女性 (%)	合計 (%)
小学校	103 (29.4)	247 (70.6)	350 (100)
中学校	81 (43.1)	107 (56.9)	188 (100)

(2) 調査実施期間：2008年6月下旬から7月上旬であった。

(3) 調査方法：質問紙法

質問紙の内容は、学生ボランティアを派遣している4大学(徳島大学・鳴門教育大学・徳島文理大学・四国大学)の学生派遣責任者が協力して作成した。それを徳島市教育委員会(以下、市教委)の責任者が修正の上、承認した。市教委の担当指導主事が小学校と中学校の校長会で質問紙調査についての説明を行い、協力を依頼した。その後、学校毎に教員数分を印刷して、封筒に入れ、市教委からその封筒を配布した。配布2週間後に市教委が質問紙を回収し、それを著者らが受け取った。

(4) 質問紙の構成：大きく4つの質問内容で構成された(附表参照)。

A：学習支援ボランティアの存在についての1項目。「あなたは学習支援ボランティアとして大学(院)生があなたの学校に来ていることをご存

じですか？」であった。

B：学習支援ボランティアの活動への期待についての11項目であった。

C：学生への要望についての12項目であった。

D：教師自身のことについての8項目であった。

A～Cでは、「はい」、「どちらでもない」、「いいえ」の3件法で回答を求めた。Dではあてはまるものすべてに○印をつけてもらった。加えて、Bでは具体的な内容を記述するための自由記述欄を設けた。

結果

(1) 学生ボランティアの認識度

校種別のボランティアの認識率は Table 2 に示す通りである。学生ボランティアの存在は各学校に定着していると言える。

学校におけるボランティアとの関わりは Table 3 に示す通りである。ボランティアの存在は知っていても、実際に関わりがあるのは、小学校・中学校共に半数である。

Table 2. 校種別人数内訳 (%)

校種 \ 有無		知っている	知らない	合計
		人数 (%)	人数 (%)	
小学校	人数 (%)	343 (98.0)	7 (2.0)	350 (100)
中学校	人数 (%)	188 (100)	0 (0)	188 (100)

Table 3. 校種別人数内訳 (%)

校種		有無	ある	ない	合計
小学校	人数 (%)		174 (49.7)	176 (50.3)	350 (100)
中学校	人数 (%)		86 (45.7)	102 (54.3)	188 (100)

(2) 校種別学生ボランティアに期待する活動

校種別に Table 4 に示す項目についてどの程度期待するかを検討した。質問のうち、11 番目「その他」を除く項目を「はい」2 点、「どちらでもない」1 点、「いいえ」0 点で評定し、校種別に分散分析を実施した。結果

は Table 4 に示す通りである。

校種に有意差がみられなかったのは、「学習につまずきのある子どもへの個別支援」、「授業中、学習に集中できない子どもへの支援」、「一斉指導の時、支援の必要な子どもへの適切な支援」、「子どもの様子を伝える」の 4 項目であった。

Table 4 校種別学生ボランティアに期待する活動の分散分析表

校種	小学校 平均 (SD)	中学校 平均 (SD)	F 値	df	有意 確率
学習につまずきのある子どもへの個別支援	1.90 (0.340)	1.94 (0.285)	1.978	1,536	n.s.
授業中に離席する子どもへの支援	1.80 (0.467)	1.56 (0.762)	23.841		p=0.000
授業中に教室を出てしまう子どもへの支援	1.68 (0.629)	1.31 (0.782)	16.339		p=0.000
授業中、学習に集中できない子どもへの支援	1.84 (0.427)	1.81 (0.429)	0.363		n.s.
一斉指導の時、支援の必要な子どもへの適切な支援	1.88 (0.372)	1.82 (0.446)	2.617		n.s.
給食指導中の支援	1.34 (0.715)	0.94 (0.802)	19.423		p=0.000
清掃活動中の支援	1.45 (0.695)	1.15 (0.816)	11.010		p=0.000
休憩時間での遊びや友人関係への支援	1.50 (0.689)	1.07 (0.816)	44.875		p=0.000
パニックなど興奮状態にいる子どもをクールダウンさせるなどの支援	1.43 (0.718)	1.20 (0.735)	6.569		p=0.000
子どもの様子を教師に伝える	1.87 (0.395)	1.84 (0.400)	1.193		n.s.

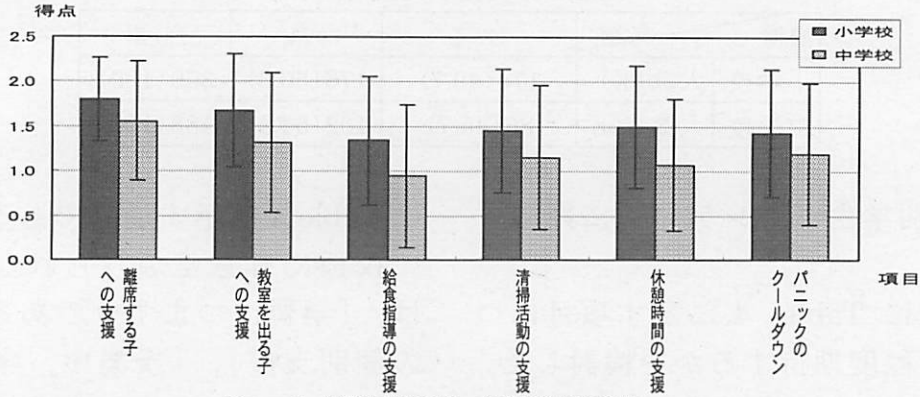


Figure 1 校種で差のあった期待する項目

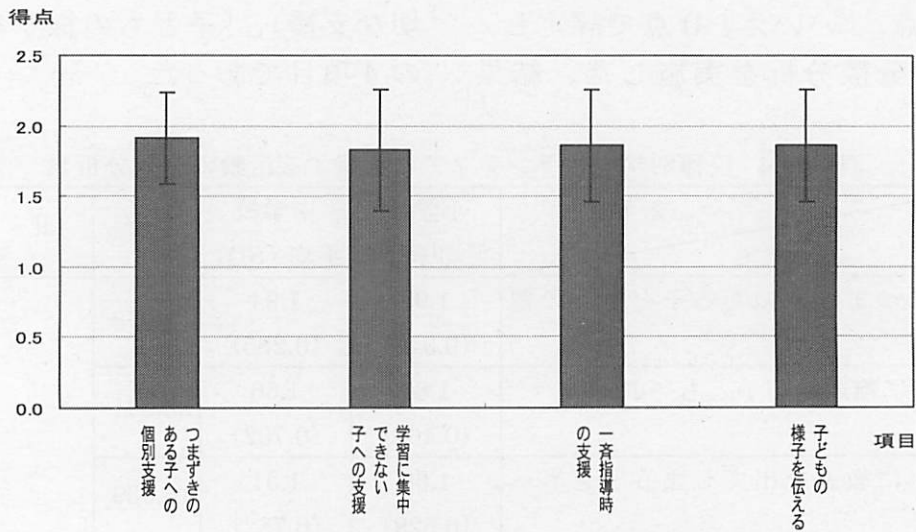


Figure 2 校種で差のなかった期待する項目

校種によって有意差がみられたのは、「授業中に離席する子どもへの支援」、「授業中に教室を出てしまう子どもへの支援」、「給食指導中の支援」、「清掃活動中の支援」、「休憩時間の遊びや友人関係への支援」、「パニックなど興奮状態にいる子どもをクールダウンさせるなどの支援」の6項目であった。

校種間で差のあった項目について、校種別に平均値と標準偏差を図示し

たのが、Fig. 1 である。いずれも中学校の方が、小学校よりも期待が低くなっていた。校種間で差の見られなかった項目の平均値と標準偏差を図示したのが、Fig. 2 である。

学生ボランティアに期待する項目各質問には自由記述欄を設けた。それぞれの質問の校種別自由記述回答人数と割合は Table 5 に示す通りである。各項目について、約 10～30% の自由記述回答があった。

Table 5 校種別自由記述回答数 (%)

項 目	小学校	中学校
学習につまずきのある子どもへの個別支援	87(24.9)	57(30.3)
授業中に離席する子どもへの支援	73(20.9)	49(26.1)
授業中に教室を出てしまう子どもへの支援	72(20.6)	50(26.6)
授業中、学習に集中できない子どもへの支援	56(16.0)	43(22.9)
一斉指導の時、支援の必要な子どもへの適切な支援	66(18.9)	37(19.7)
給食指導中の支援	58(16.6)	21(11.2)
清掃活動中の支援	59(16.9)	29(15.4)
休憩時間での遊びや友人関係への支援	69(19.7)	26(13.8)
パニックなど興奮状態にいる子どもをクールダウンさせるなどの支援	86(24.6)	34(18.1)
学習支援ボランティアの目から見た子どもの様子を担任教師に伝えること	74(21.1)	35(18.6)

Table 6 学習につまずきのある子どもへの個別支援の校種別回答別自由記述回答数と例

	はい(82)	どちらでもない(5)	いいえ(0)
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 声掛けを多くしてもらえば集中しやすくなる。 基本的なつまずきを補ってくれたら助かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導は担任がある程度できる。 週 1 回で子どもがなじめるのか気がかりだ。 	
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 個別にわかりやすく解説補足してほしい。 ノート記録の確認と補助。 	<ul style="list-style-type: none"> どちらでもない(1) 支援が必要と指定されている生徒以外にも広く支援をしてもよいのではないか。 	

Table 7 授業中、学習に集中できない子どもへの支援の校種別回答別自由記述回答数と例

	はい(52)	どちらでもない(4)	いいえ(0)
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア学生の一言で集中が戻る時もある。 横についていただければ集中しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> そういう子も含めて授業が成立するように努力しているので、対応は担任が工夫するべき。 集中出来ない子どもは多いので、タイミングをつかむのは難しいから。 	
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 声掛けやつまずきへの支援 教科書を開けるなどの授業準備をさせて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> どちらでもない(3) 素直に指導が入っていく生徒に対しての支援は可能だが・・・。 どうして集中出来ないのか理由が分かれば支援してほしいが、原因がわからなければ、効果は期待できない。 	

Table 8 一斉指導の時、支援の必要な子どもへの適切な支援の校種別回答別自由記述回答数と例

	はい(60)	どちらでもない(4)	いいえ(2)
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒントを与えるなど個別に対応できる利点を活かして向き合ってもらえると助かる。 ・一斉指導時に個別指導の時間がなかなか取れない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対応が難しいから。 ・指導の意図をどこまで把握できているかが疑問。 ・TTで入ってもらえれば。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援が必要かどうかの判断は、一斉指導時に学生ボランティアには難しい。 ・担任の仕事だと思う。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・指示について行けない子、理解出来ていない子への支援をお願いしたい。 ・板書が苦手な生徒への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらでもない(1) ・ボランティア学生が入ることが、プラスに働くか、マイナスに働くかがわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いいえ(2) ・教室内にいれば、何とか授業の方法もあるから。 ・特別な場合を除き、区別がつきにくい。

Table 9 学生ボランティアの目から見た子どもの様子を担任教師に伝えることの校種別回答別自由記述回答数と例

	はい(73)	どちらでもない(1)	いいえ(0)
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・違った新鮮な目で見た意見をいただくと指導のよりよい手立てが見つかるかも知れない。 ・お互いに情報交換することでよりよい指導につながると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらでもない(1) ・感じたことを文面化し、コーディネーターが中を取って伝えの方が良い場合もある。 	
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな角度から生徒を理解したい。 ・自分の教科以外の様子が分かりにくいのでできれば生徒の様子を知らせてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらでもない(0) 	

Table 5 の自由記述をさらに「はい」、「どちらでもない」、「いいえ」別に分類し、校種別にそれぞれの回答例を記した。校種で差のなかった期待する4項目についての自由記述を Table 6 から Table 9 に示した。4

項目はいずれも「はい」と回答した割合が 91～100%となっており、現在学生ボランティアが行っている活動、期待する具体的支援内容、予想される効果、教師の現状、児童生徒の現状、期待する項目内容の限界な

どに分類できた。小学校と中学校で差のあった項目は6項目であった (Table10 ~ 15)。いずれも中学校の方が小学校に比べて、期待する程度は低かった。自由記述の内容は、具体的支援、期待する支援、支援によってもたらされる学生ボランティアによってよい面、限界などに分類

できる。「授業中の離席」は、中学校ではあまり見られない。また、小学校では、当該児童の安全確保のための支援という期待が多いが、中学校では、生徒指導上の問題と捉えており、学生ボランティアの支援は難しいと判断している。

Table 10 授業中に離席する子どもへの支援の校種別回答別自由記述回答数と例

	はい(61)	どちらでもない(10)	いいえ(2)
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 安全確保の面からありがたい。 そばに寄り添うことで落ち着いて学習に取り組めるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 離席する子はいない。 発達障害児の場合、常時関わりのある教師の方が支援しやすいかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害児の場合、専門家が支援すべきで、ボランティアではできない。 担任の方が安定することが多く、早い。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 声掛けを行って欲しい。 教師とは違う立場で理由を聞いてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア学生が来ることが良い方向に働くか、悪い方向に働くのかはわからない。 今はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 該当者はいない。 生徒に対する十分な理解がなければ、逆効果になる可能性がある。

Table 11 授業中に教室を出てしまう子どもへの支援の校種別回答別自由記述回答数と例

	はい(62)	どちらでもない(7)	いいえ(3)
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 児童の安全面、他児の管理補助をして欲しい。 支援する児の特徴を事前に聞いて、担任と同じ方向性で接して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 実態をつかみ切れていないから指導は難しいだろう。 子どもによってはそれでストレスを緩和することができ、次の学習にスムーズに入れる場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> その対応は担任がしたいから。 担当が他に配置されている。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 担任だけでは対応しきれないので、追いかけて個別に支援して欲しい。 授業者以外の教師へ連絡をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業者にとって有難いが、生徒指導上、無理は要求できない。 支援できるだけの余裕があればという条件付き。 	<ul style="list-style-type: none"> 信頼関係があれば大丈夫だと思いますが、なければ支援は難しいと思う。 生徒指導上の問題だから。

Table 12 給食指導中の支援の校種別回答別自由記述回答数と例

	はい(38)	どちらでもない(17)	いいえ(3)
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生面, 安全面を見てほしい。 ・準備, 片付けの補助 ・楽しく食事をするためのマナーを指導してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達と楽しく給食を食べてほしい。 ・時間外なので出来る範囲でよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食には入っていない。 ・支援を必要とすることが少ない。 ・児童と楽しく食べてくれるだけでよい。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間で準備, 後片付けが必要なので, 見守り, 声掛けをお願いしたい。 ・人間的なふれあいやつながりができる大切な時間。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の指導下における支援であればお願いしたい。 ・ボランティア学生に少しでも経験してもらうために生徒達と一緒に食べてもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全てに関わることは生徒とのつながりもでき, 学習支援もやりやすくなるだろうが, 時間制限もあるので, 授業中心に行うのがよい。

Table 13 清掃活動中の支援の校種別回答別自由記述回答数と例

	はい(47)	どちらでもない(10)	いいえ(2)
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・目の行き届かない場所に支援に行ってくださいと助かる。 ・声掛けと共に掃除する姿を見て, 掃除の意義を学べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外なので出来る範囲でよい。 ・ゆとりができてからでよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入っていない。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に掃除をして掃除の姿を教えてほしい。 ・何箇所か分担箇所があり, 一人では見るできないため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そこまでお願いして良いのか。 ・現在は午前中のみで, 授業終了後の清掃時間である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入っていない。 ・午前中の勤務である。

「給食指導」と「清掃指導」は、学生ボランティアの活動時間帯の関係で入っていないことが多い。「休憩時間での遊びや友人関係への支援」について小学校では、教師年齢が高くなっているため、若い学生ボランティアと一緒に遊んでほしい、遊ぶことで児童理解に繋がるという回答がある。中学校では、生徒と関わることで信頼関係が深まると考えている

が、学生ボランティアの活動時間帯を考慮し、授業への支援を希望しているようである。「パニックなど興奮状態にいる子どもをクールダウンさせるなどの支援」は「はい」という回答率が期待する支援項目の中で最も低い。小学校・中学校共に危険であるとか、荷が重いなどの回答が複数見られた。

Table 14 休憩時間での遊びや友人関係への支援の校種別回答別

自由記述回答数と例

	はい(62)	どちらでもない(6)	いいえ(1)
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援計画でソーシャルスキルトレーニングの1つとして外で友達と遊ぶという目当てを持っている児童がいるので。 ・教師の目が行き届かないところを見て欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任だけで十分にできることが多い。でも担任一人で出来ない時もある。 ・支援の必要な児童がどのような時かによって変わるので。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故が起きた時、責任を負えないから。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢が近い分、気持ち可以理解できる。 ・生徒達もお兄さん、お姉さん感覚で休み時間は気軽に声を掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との年齢が近いこともあり、教員には見せない姿を見せることがある。気づいたことは学級担任等に知らせてもらう。 ・友人関係等は急に把握するのは難しく、配慮が欠かせない生徒もいるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対する十分な理解がなくては支援が逆効果になる可能性があるため、慎重な対応をお願いしたい。 ・時間制限もあるので、授業中心に行うのがよい。

Table 15 パニックなど興奮状態にいる子どもをクールダウンさせるなどの支援の校種別回答別

自由記述回答数と例

	はい(57)	どちらでもない(20)	いいえ(9)
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・そばにいて話を聞いてあげると落ち着くのではないか。 ・クールダウンさせるのは担任がして、他の児童の管理をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パニックなどの興奮状態になっている子はボランティア学生にとって荷が重いのではないか。専門的知識があって適切な対応ができるのであればお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故が起きた時に責任を負えないから。 ・一人一人の個人特性がわからないと難しいと思う。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に別の場所でクールダウンしたら、そうなった理由を聞いてやってほしい。 ・寄り添うことでクールダウンになることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時と場合によって難しいと思うので、ボランティア学生の仕事ではないと思う。 ・基本的には教員が対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の性格等を知っていなければ危険である。 ・なかなかそこまでの関係は作れない。

(3) 校種別学生ボランティア学生への要望

校種別に Table 16 に示す項目についてどの程度学生ボランティア学生に要望するかを検討した。質問のうち、12 番目「その他」を除く項目を「はい」2 点、「どちらでもない」1 点、「いいえ」0 点で評定し、校種別

に分散分析を実施した。結果は Table 16 に示す通りである。全ての項目において有意差が見出されなかった。そこで、項目を要因とする一元配置分散分析を実施したところ、有意差が認められた ($F_{10,5907}=18.34$, $P=0.000$)。

Table 16 校種別学生ボランティア学生に身につけてほしい項目内容の分散分析表

No	項目内容	校種		F 値	df	有意確率
		小学校 平均 (SD)	中学校 平均 (SD)			
1	大きな声で挨拶してほしい	1.88 (0.331)	1.85 (0.386)	1.004	1,536	n.s.
2	学校に相応しい服装・ヘアスタイルを考えてほしい	1.82 (0.406)	1.85 (0.404)	0.493		n.s.
3	休む場合は連絡してほしい	1.92 (0.277)	1.93 (0.301)	0.011		n.s.
4	学校の一日のスケジュールを知っておいてほしい	1.75 (0.457)	1.78 (0.499)	0.273		n.s.
5	教師の指示に従い、行動してほしい	1.75 (0.443)	1.79 (0.460)	1.048		n.s.
6	教師の指示が理解できない場合、質問してほしい	1.94 (0.232)	1.94 (0.257)	0.004		n.s.
7	授業中には教師の言動を理解し、それに合わせて臨機応変に行動してほしい	1.85 (0.382)	1.87 (0.365)	0.488		n.s.
8	子どもと一緒に考えたり、行動したりしてほしい	1.81 (0.410)	1.78 (0.477)	0.548		n.s.
9	子どものことで気になることがあれば、相談してほしい	1.95 (0.234)	1.97 (0.204)	0.929		n.s.
10	広汎性発達障害, ADHD, 学習障害について理解しておいてほしい	1.87 (0.350)	1.89 (0.309)	0.843		n.s.
11	子どもの行動上の問題についての対応方法がある程度知っておいてほしい	1.80 (0.408)	1.84 (0.381)	1.257		n.s.

項目毎に全体の平均値と標準偏差を示したのが、Fig. 3 である。各項目間の下位検定を行った結果は Table 17 に示す通りである。項目 9 の「子

どものことで気になることがあれば、相談してほしい」が他の項目と比べて有意に高かった。

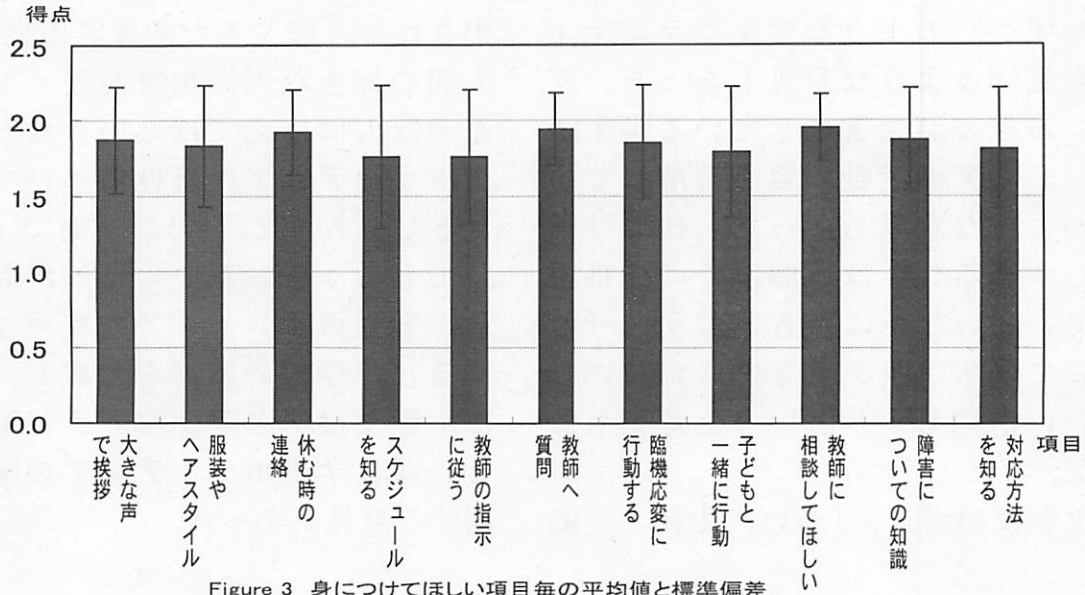


Figure 3 身につけてほしい項目毎の平均値と標準偏差

Table 17 身につけてほしい項目間の差

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
1		-0.043	0.052	-0.110*	-0.112*	0.071	-0.015	-0.076*	0.084*	0.004	-0.058
2			0.095*	-0.067	-0.069	0.114*	0.028	-0.033	0.126*	0.046	-0.015
3				-0.162*	-0.164*	0.019	-0.067	-0.128*	0.032	-0.048	-0.110*
4					-0.002	0.180*	0.095*	0.033	0.193*	0.114*	0.052
5						0.182*	0.097*	0.035	0.195*	0.115*	0.054
6							-0.086*	-0.147*	0.013	-0.067	-0.128*
7								-0.061	0.099*	0.019	-0.043
8									0.160*	0.080*	0.019
9										-0.080*	-0.141*
10											-0.061
11											

*: p=0.05

(4) その他の自由記述

学生ボランティアに期待する活動と身につけてほしい事柄として質問項目以外の自由記述の内容数と割合を示したのが、Table 18である。

「その他の学習支援ボランティアに期待する活動」は、小学校の場合、

「個別の支援や対応」、「積極的、自主的」、「若さ、お兄さんお姉さん」、「担任と情報交換、一緒に活動」などがキーワードとして抽出された。また、「子どもは十人十色」、「障害名は同じでも特徴は一人一人異なる」、「その子なりのよいところを個性と

して認める」など支援の必要な児童に関わる際のアドバイスなどがあった。また、「あせらず、できることを少しずつ」のような学生ボランティアを見守るような意見もあった。反面、市教委が文書化している学生ボランティアの活動内容を理解していないような意見もあった。他に「期待しすぎることは教師がその仕事をしていないことになると思う」、「どこまで学生ボランティアにお願いしていいか難しい」といった意見もあった。

中学校の場合、「若い、生徒と年齢

が近い」、「気づいたことがあれば」話して欲しい、伝えて欲しい、知らせて欲しい」がキーワードとして抽出された。「細やかな配慮が出来る人、人間の好きな人、化粧が濃く服装の派手な人は控えてほしい」などが学生ボランティアの適性についての意見としてあった。「2日/週で1日中いてもらうとお互いの理解が高まるし、学生ボランティアの有用感も高まる」、「学校の実態を考慮し、どこに一番支援が必要かを考えて配置する」など学生ボランティアの配置に関する意見があった。

Table 18 校種別その他の自由記述数(%)

項目	小学校	中学校
その他の学習支援ボランティアに期待する活動	55(15.7)	24(12.8)
その他の学習支援ボランティアに身につけておいてほしい事柄	62(17.7)	22(11.7)

「その他の学習支援ボランティアに身につけておいてほしい事柄」は、小学校の場合、「明るい」、「やる気、意欲的」、「人柄」、「教師としての自覚」、「一般常識」などがキーワードとして抽出された。教師としての意識を持って行動してほしいという意見が多数あった。

中学校の場合、「情熱・意欲」、「健康」、「挨拶など一般的マナー」、「教員との連携」、「それぞれ立場」、「自主性」「知識」、「教員志望」などがキーワードとして抽出された。

考 察

学生ボランティアの存在は教師に認識されていると言える。これは、

市教委が各学校を対象として説明会を実施していること、今まで派遣された学生達の活動状況が良かったことが関係すると思われる。学校現場で実際に学生ボランティアと関わっているのは半数となっていた。各学校で支援を必要とする場や支援を必要とする児童生徒達と関わっている教師がいる場で学生ボランティアは活動しているので、それ以外の教師と関わる機会がないのかもしれない。

次に、学生ボランティアに期待する項目は、授業時間、それ以外の時間という時間帯別の内容、児童生徒の行動への支援内容、児童生徒の行動についての支援内容に分けられていた。授業時間についての自由記述

から学習態度に課題のある児童生徒が多く、その子ども達への個別指導が十分にできない現状があると推測される。ここでは学生ボランティアは各授業の流れを理解し、心理的に授業に入って児童生徒の気持ちを理解しながら、声を掛けていくことが求められているのかもしれない。

授業時間外の時間である給食、清掃、休憩時間での支援は、小学校と中学校で期待度が異なっていた。これは児童と生徒の発達が関係すると思われる。小学校では、給食時間の配膳、食事のマナー、清掃時間の掃除の仕方などが身につけていない児童が多く見られるので、その支援を学生ボランティアに期待している。休憩時間については、訓練の一環として学生ボランティアに支援を期待している部分がある。中学校では、給食時間、清掃時間と休憩時間に学生ボランティアが支援をすれば生徒との関係作りに役立つかもしれないと考えているようである。

児童生徒の行動への支援内容として「パニックなど興奮状態にいる子どもをクールダウンさせるなどの支援」を質問項目とした。教師の期待は中学校の方が低い、小学校でも他の期待する支援内容の中では低かった。両者とも自由記述から学生ボランティアの直接対応を期待する意見、条件つきで学生ボランティアの直接対応を期待する意見、危険が伴うなどの理由から学生ボランティアには期待しない意見などさまざま

あった。教師のパニック児童生徒への考えはさまざまなようであるが、実際に指導に苦慮している教師の姿が垣間見られる項目である。

児童生徒の行動についての支援内容として「学生ボランティアの目から見た子どもの様子を担任教師に伝える」という質問項目を設定した。これについては児童生徒理解に繋がるので教師とは異なる立場からの意見を知りたいという意見が多数あり、学生ボランティアに期待する支援内容である。しかし、これは学生ボランティアと児童生徒との関係、学生ボランティアと教師の関係、児童生徒と教師の関係等さまざまな関係を学生ボランティアは考えながら慎重に対応する必要がある。

3番目の質問であった学生ボランティアに身につけてほしい内容は、社会人として、学校現場に入る人材として必要と思われる内容について尋ねたため、いずれも身につけてほしいという回答であった。この中で最も要望の高かった項目が、「子どものことで気になることがあれば、相談してほしい」であった。学生ボランティアは、気になることがあれば自己判断せず、相談することが求められている。

以上、調査結果から学生ボランティアにはどのようなことが求められているかをまとめた。ここから浮かび上がったものとして、まず、特別支援教育に対する教師の意識である。個別支援の必要な多数の児童生徒を

目の前にして指導に苦慮している姿があり、その中で担任として孤軍奮闘している教師、他からの支援を求めている教師があり、指導や支援の方法はさまざまである。学生ボランティアに求める支援についてもさまざまである。期待する支援では、項目が決められていたためそれに関わる自由記述があったが、最後にその他の項目で自由記述を求めた期待する支援では学生ボランティアに対する期待に教育実習の予備的経験のような意味合いを考えている教師もある。学生ボランティアは学生の自主的活動であり、小学校・中学校で何かの役に立ちたいという意欲に基づく活動と言える。市教委は主に保育、教育、臨床心理などに関わって勉学を重ねている学生という条件で募集している。市教委の考えと教師の考えにずれがある可能性がある。

今回の調査からは学生ボランティアの存在に対してあまり否定的な記述はなかった。調査結果から学生ボランティアに教師が求めているのは教師の物理的限界を補う役割であると言える。教師は学生ボランティアに「教師としての自覚を持って」行動してほしいと考えているが、児童生徒の目からは学生ボランティアをどのように見ているのであろうか。この点については今後の検討が必要と言える。

支援を必要とする児童生徒への個別支援が求められている特別支援教育に教師以外のさまざまな立場の人

々が支援を目的として学校現場に入っている。調査結果にもあったが、教師以外の多くの立場から児童生徒を見ることはよいことと言える。その上で、それぞれの立場の人が対等に児童生徒の状態、対応方法を話し合い、工夫できればなおよいと考える。

引用・参考文献

- 独立行政法人科学技術振興機構
2008 理科支援員等配置事業
http://www.tokushima-ec.ed.jp/science_support/index.html (2009.9.17.)
兵庫県教育委員会 2006 兵庫の特別支援教育
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~sho-bo/21hyogonotokube.pdf> (2009.9.17.)
京都市教育委員会 2008 総合育成支援員の募集
<http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000057947.html> (2009.9.17.)
神戸市小学校長会 2004 続 変容する子どもたち みるめ書房
文部科学省 2008 特別支援教育平成20年度実施事業
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/006/002.htm (2009.9.17.)
徳島市教育委員会 2008 学校支援助教員候補者登録要綱
http://www.city.tokushima.tokushima.jp/gakko_kyoiku/gaiyo27.html (2009.9.17.)

(受付日2009年9月30日)
(受理日2009年10月22日)

附表

学校教職員の学習支援（特別教育支援） ボランティアに対する意識調査

拝啓、時節の候、貴校におかれましてご清祥のこととお喜び申し上げます。この度は特別教育支援の学習支援ボランティアのことでいろいろとお世話になります。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

学習支援ボランティアは、自分の空いている時間に小学校あるいは中学校で児童・生徒さんに対してさまざまな支援活動を行う存在と理解しております。学習支援ボランティアは学部学生あるいは大学院生であり、ボランティアを送りだしている大学としては彼らの人間的成長をも目的としています。

そこで、学習支援ボランティア活動をより充実させていくために小・中学校の先生から期待されている学習支援ボランティアの態度、行動、また、事前あるいはボランティアを行っている最中にどのような指導を大学に望まれるのかを知りたいと考えております。

どうぞ、忌憚のない意見をお聞かせください。記入方法は、当てはまるところに○印、もしくは、お手数ですがご意見を記入してください。

なお、得られた結果は統計的に処理を行いますので、個人や学校が特定されることはありません。また、本目的以外には使用しません。

学習支援ボランティア派遣4大学（鳴門教育大学・四国大学・徳島文理大学・徳島大学）

調査担当者（徳島文理大学 島 治伸・徳島大学総合科学部 山本真由美）

調査に関する問い合わせ先 徳島大学総合科学部
臨床発達心理学研究室 山本 真由美
yamamoto@ias.tokushima-u.ac.jp; 088-656-7192

- A. あなたは学習支援ボランティアとして大学（院）生があなたの学校に来ていることをご存じですか？

はい	わからない	知らない
----	-------	------

- B. 学習支援ボランティアにどのような活動を期待しますか？

当てはまるところに○印をつけてください。

また、各問の空欄にその理由あるいは具体的な支援方法をお書きください。

はい	どちらでもない	いいえ
----	---------	-----

1. 学習につまずきのある子どもへの個別支援

その理由、具体的な内容があればお書きください。

2. 授業中に離席する子どもへの支援

その理由、具体的な内容があればお書きください。

	ど ち ら で も	
は い	な い	い い え

3. 授業中に教室を出てしまう子どもへの支援

その理由，具体的な内容があればお書きください。

4. 授業中，学習に集中できない子どもへの支援

その理由，具体的な内容があればお書きください。

5. 一斉指導の時，支援の必要な子どもへの適切な支援

その理由，具体的な内容があればお書きください。

6. 給食指導中の支援

その理由，具体的な内容があればお書きください。

7. 清掃活動中の支援

その理由，具体的な内容があればお書きください。

8. 休憩時間での遊びや友人関係への支援

その理由，具体的な内容があればお書きください。

9. パニックなど興奮状態にいる子どもをクールダウンさせるなどの支援

その理由，具体的な内容があればお書きください。

学生ボランティアに対する派遣校教師の評価

	ど ち ら で も	
は い	な い	い い え

10. 学習支援ボランティアの目から見た子どもの様子を担任教師に伝えること

その理由、具体的な内容があればお書きください。

11. その他、期待する活動を記入してください。

具体的な内容があればお書きください。

- C. あなたは学校に派遣される前に大学（院）生はどのようなことを身につけておいてほしいですか？

	ど ち ら で も	
は い	な い	い い え

1. 大きな声で挨拶してほしい
2. 学校に相応しい服装，ヘアスタイルを考えてほしい
3. 休む場合は連絡してほしい
4. 学校の一日のスケジュールを知っておいてほしい
5. 教師の指示に従い，行動してほしい
6. 教師の指示が理解できない場合，質問してほしい
7. 授業中には教師の言動を理解し，それに合わせて臨機応変に行動してほしい
8. 子どもと一緒に考えたり，行動したりしてほしい
9. 子どものことで気になることがあれば，相談してほしい

	ど ち ら	
は	な	い
い	い	え
	も	

10. 発達障害，ADHD，学習障害について理解しておいてほしい

--	--

11. 子どもの行動上の問題についての対応方法がある程度知っておいてほしい

--	--

12. その他，学習支援ボランティアに身につけておいてほしい事柄を記入してください。

D. あなたのことにしておうかがいします。当てはまるところに○印をつけてください。

1. あなたの学校は () 小学校 () 中学校
2. あなたの学校における職種についてお伺いします。
 () 校長 () 副校長・教頭 () 教諭
 () 養護教諭・養護助教諭 () 助教諭・助教員・講師
3. あなたの校務分掌をお伺いします。当てはまるものすべてをご回答ください。
 () 通常学級担任 () 特別支援学級担任 () 通級指導教室担当
 () 部活顧問 () 特別支援教員コーディネータ () 専科・副担任
 () 教務主任 () 生徒指導主事主任
 () その他(具体的に)
4. 現在の学校での勤務年数をお答えください。
 () 1年未満 () 1～3年 () 4～6年 () 7年以上
5. 学習支援ボランティアとの関わりが () ある () ない
6. 性別は () 男性 () 女性
7. 年齢は () 20歳代 () 30歳代 () 40歳代
 () 50歳代 () 60歳以上

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。